そろいのハッピで「ワッショイ、ワッショイ」

「こどもみこし」が練り歩く

西百町「祇園祭」

西百町地区で五穀豊穣を願う祇園祭が7月17日、行われました。10年以上前から行われている「こどもみこし」で祭りは開始。地区の小学生27人は、玉垂神社を出発し、地区内約4kmを1時間30分かけて練り歩きました。子供たちの“ワッショイ！ワッショイ！”の元気なかけ声に、沿道の人たちも声援を送っていました。祭りは生ビールや焼き鳥などの露店も出て、カラオケや演芸、お楽しみ抽選会などでも盛り上がりました。

公民館へ“お帰りなさ～い”

城内公民館で「通学合宿」

協調性や自主性、思いやりの心を育て、家庭の大切さを知ってもらおうと、公民館に寝泊まりしながら学校へ通う「通学合宿」が7月14日から16日まで、城内公民館で行われました。参加したのは城内小6年生28人。料理は自分たちでカレーやスパゲティなどを作り、お風呂は水の郷の温泉に入りました。昨年も参加した子供も多く、「まくらなげが楽しかった」「友達といろんな話ができた」と話していました。合宿では城内地区育成会など大人が、交代で子供たちを見守りました。

自分たちで作ったカレーは最高

一瞬のスキをついた、気迫の一本！

有明海旗を目指して“めーん！”

第24回有明海旗争奪少年剣道大会

剣道を通じて心身を鍛錬し、心豊かでたくましい人材を育成しようと、「有明海旗争奪少年剣道大会」が7月10日、市民体育館で行われました。

今年で24回目となる大会には、有明海沿岸や姉妹都市の宮崎県延岡市などから、昨年より25チームも多い161チームが参加しました。会場は仲間や保護者たちの応援と、剣士たちの気合いの入ったかけ声が響き、夏の暑さ以上にヒートアップしていました。大会には、市内の剣道クラブから12チームが参加しました。

倒れたひまわりを植え替え

ひまわり祭り「開園式」

橋本町の柳川ひまわり園で7月18日、「ひまわり祭り」の開園式が行われました。ひまわり園は7月上旬の風雨で一部が倒れてしまいました。そこで地元の「両開花の里実行委員会」は、開園式前に倒れたひまわりを刈り取り、花を植えることにしました。開園式に参加した両開小学校や柳南中学校の子供たちは、式典が終わった後、ニチニチソウやポーチュラカなどをていねいに植えていきました。みんなで植えた小さな花たちは、大きなひまわりをより引き立てていました。

ひまわり園にニチニチソウやポーチュラカを植えた

ジュニアコーラスWing21の子供たちの歌声が海にも届いた

有明海よ！　ありがとう

第5回豊かな有明海を子どもたちへ

このイベントは命の海、有明海に感謝しようと、まちづくりネットワーク柳川（川口聡会長）が中心になり毎年開いているもので、今回「有明海愛」の原点に立ち返り、7月18、19日両開のむつごろうランドで開かれました。大漁旗がはためく会場は、農協女性部や婦人会、杉森高校などの物産販売テントが立ち並び、合唱、バンド演奏、よさこいやエイサーなどの踊り、夜はキャンプファイヤーなどで遅くまで賑わいました。また、くもで網漁の体験をはじめ、有明海沿岸のゴミを拾うクリーン作戦、星野村の子供たちとの交流も行われました。

生きたうなぎの扱いは、手袋をしていても一苦労

景気も観光客も“うなぎ上り”に

うなぎ供養祭で約200匹を放流

土用の丑（うし）の日を前に7月19日、柳城公園横にあるうなぎ供養碑の前で、供養祭が行われました。

これは、柳川市内で年間約100万匹も消費されるうなぎの霊を慰めようと、柳川うなぎ料理組合（本吉幸雄組合長）が毎年行っているもので今年で39回目。神事には関係者約30人が参列し、うなぎの霊を慰めました。神事の後、参列者はうなぎ約200匹を掘割に放流。本吉組合長は「日ごろからうなぎに感謝しています。うなぎは夏バテ防止に最適です」と語っていました。

わが身を守り　仲間を助ける

藤吉小学校で着衣水泳教室

水難事故を防ごうと藤吉小学校（野田幸隆校長・461人）では7月14日、着衣水泳教室が開かれました。

この日は2年生81人が、先生から「自分の身を守る泳ぎ方」、友だちがおぼれたときの「助けの呼び方」「浮かぶものを使った助け方」の模範演技や説明を受けました。子供たちは服を着たままプールに入り、体力の消耗を避けるため、ペットボトルやビニール袋などで浮くことを練習。また人を助けるため、ロープやペットボトルの投げ方を学びました。同校では翌日、残る全学年も着衣水泳教室が行われました。

おぼれた人を助けるため、空のペットボトルを投げる